

耳鼻咽喉科

Q

長年鼻づまりが続く。アレルギー検査は陰性だが…

54歳の男性。20年以上前から、1年中鼻がつまっています。市販の点鼻薬を使うと一時的に鼻は通りますが、すぐに元に戻ってしまいます。耳鼻科では鼻の粘膜が腫れているためといわれ、アレルギーの血液検査もしましたが、原因はわかりませんでした。こういった病気なのでしょうか。

(山形 N)

A

鼻づまりの原因はたくさんある。点鼻薬の使いすぎも悪化を招く

笠井耳鼻咽喉科クリニック 院長

笠井 創



鼻閉(鼻づまり)は、多種多様な原因によって日常よく起こる症状の一つです。ひどい鼻閉があってもあまり気にされない方も多いのですが、わずかな鼻閉でも、ひどくうっとうしいと感じられ、日常生活に多大な影響が出る方もあり、鼻閉が生活の質に及ぼす影響は人それぞれに大きく異なります。耳鼻咽喉科では鼻閉の原因疾患を診断し治療を行います。

鼻閉の主な原因としては、感染症、鼻腔の構造的な問題、アレルギー性鼻炎、血管運動性鼻炎、肥厚性鼻炎などがありますが、そのうち2つ以上の要因が関与しているのが普通です。そのうちでも、1年中鼻閉のある場合にはハウスダストやダニ、カビ、

ペットの上皮などの原因抗原が考えられ、季節性の原因では春先のスギ花粉症が原因として多いものです。

アレルギーのほかにも、様々な原因で鼻粘膜が腫れて鼻閉を来します。たとえば、精神的ストレス、甲状腺機能異常、妊娠、ある種の血圧降下剤、鼻粘膜収縮用の点鼻薬の使いすぎ、香料やたばこの煙などによる刺激等があげられます。いくら検査をしても原因が特定できないケースもあります。そのような原因不明の場合に、鼻閉が主症状であれば慢性肥厚性鼻炎、過敏症状が特に強ければ血管運動性鼻炎と診断されることがあります。血管運動性鼻炎は温度変化にも過敏で、特に季節の変わり目にくしゃみ、鼻水、鼻閉を起こします。長年経過を見ているうちに、原因が判明するケースもあります。アレルギー性鼻炎、血管運動性鼻炎のいずれにしても、鼻過敏症といえる病態であり、治療法は特に変わることはありません。